

—アメリカ—

第7回アメリカ刺繍コンテストで最優秀賞

レニー・ブリンクス女史

By Ms. Renee Lee Brinks

第7回アメリカ刺繍コンテストでレニー・ブリンクス女史の「フラワー・アレンジメント」が最優秀賞に輝いた。同作品は総針数が243万4823針。5つの蘭の花で構成。刺繍は単に生地の上だけでなく、ワイヤーをカバーしたり、ミシン刺繍以外に手縫い部分もミックスしている。

レニー・ブリンクス女史に受賞した作品の解説、刺繍にかける情熱などをレポートしてもらった。

カ
ルフォルニア!

アメリカ!母が裁縫師で、ステッチのもつ素晴らしさを私に教えてくれた。まだ私の姉妹や私が縫製ミシンの足踏み台に足が届かない幼い頃から、どのようにして洋服を作るのかを教えてくれた。私は故郷のミシガン州から遠く離れた今の場所に移り住むとは思ってもいなかった。その後家族とはつねにコミュニケーションをもっている。

私が初めて大きな刺繍の機械(多頭刺繍機)と出会って、その仕事に従事してから11年になる。それはとても長い道のりである。枠張りの作業から始め、いろんな違った新しい分野の仕事をして、できる限りの事を学んできた。最初は、少しばかりの収入を得るために働き、その後は自分自身で大学へ行くための学費を払う為に、そして今は刺繍の情熱のために仕事をする、と変ってきた。

もともとは、数学者になりたくて大学に行ったが、ステッチにひかれて殆どの時間を刺繍と裁縫に費し、ますます興味を持つようになった。私の

専攻するのは刺繍に変わってしまった。

1994年、アーカンザスの大学のファッションデザインのバッチラサイエンス、販売促進、そして副専攻の芸術を取得し卒業した。在学中、刺繍のワークショップで働き夏のインターンでテキサスのダラスに行った。

そこで初めてパンチの取扱い使い方を学んだ。多頭刺繍機の操作などの取り組みを4年間した後、そこで私は一応の経験と技術のキャリアを積み事ができたと思う。それは刺繍をいろいろな角度から、観察、学習そして実行することであった。

現在、私は南カルフォルニアに住み、ファッション業界で有名なSt.Johnで刺繍部門の責任者としての仕事をしている。

1988年ステッチマガジンのコンテスト Stitches-offで最優秀賞を受けた。11年間の多頭刺繍機業の経験で多くの技術を学んだ。

私は今も刺繍が好きで好きでたまらない。St.Johnでは一流デザイナーと一緒に新しいクリエイティブなデザインの刺繍を創っている。

昨年のStitches-offの最優秀賞はその良い例である。私は、自分のクリエイティブなステッチの柄や形の分野で仕事をしているが、顧客からの注文で特別に製作する刺繍も、デザインや形状とが組み合わせるとも良い作品ができることは楽

しいものである。

我社は今も将来もより刺繍を要求し続ける。自社内に刺繍部門を設備して、大量受注の際は全米の刺繍工場加工をお願いしているが、海外からのモチーフを輸入もしている。それらは、ニットの生産現場で、縫製仕上げ後に特殊熱接着のプロ



レニー・ブリンクス女史